



近世の医・薬・食 家康との関わりも

文化芸大で公開講座

浜松市中区の静岡文化芸術大で九日、「近世日本の医・薬・食の文化とその現代的復元 歴史学を観光に繋ぐ」と題した公開講座があった。事前に申し込んだ約五十人が聴講した。

講座の前半では、文化政策学部の宮崎千穂准教授

医薬や食文化をテーマにした公開講座―浜松市中区の静岡文化芸術大で

(歴史学)が、近世日本の食物を薬や病よけと捉える考え方について講義した。

宮崎教授は、江戸幕府で旧暦の六月十六日、將軍が家臣に菓子^{かし}を賜う「嘉定」と呼ばれる儀式があったことを紹介。無病息災を願う行事で、「家康を神君化し、幕府を存続するための仕組みになっていた」と解説した。

中盤には和菓子店の巖^{いわ}堂(東区)と協力し、嘉定で出された菓子の復元なども行った。

(山手涼馬)